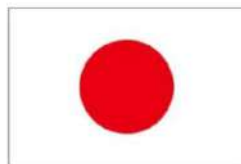


第 15 回 ODA 評価ワークショップ

2018 年 2 月 7、8 日

スリランカ、コロンボ



**From
the People of Japan**

【開会セッション】

開催国代表による挨拶



ルワンチャンドラ
スリランカ国家政策経済省次官



増島稔
外務省国際協力局審議官

【第1セッション】



アリルド・ハウゲ
国際連合開発計画独立評価局副局長



マヤ・ヴィジャヤラガバン
アジア開発銀行独立評価局課題・国別課
上級評価専門官



シヴァニャーナソーティ
スリランカ国家統合・和解省次官



新井和久
国際協力機構（JICA）評価部部長



ヨールン・ソーレンセン
国連開発計画スリランカ事務所長



【第2セッション】



石田洋子
広島大学
教育開発国際協力研究センター教授



リザング・リハットナロ
インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)
モニタリング・評価・開発理システム課課長



イシャ・ウェダシンゲ・ミランダ
スリランカ評価協会前理事、APEA 前理事

【第3セッション】



バシール・アハメッド
バングラデシュ財務省経済関係局次官補



チェドゥップ・ドルジ
ブータン ブムタン県上級企画官



イブラヒム・シャヒーブ
モルディブ外務省次官補



ボロア・エンクバヤール
モンゴル大蔵省開発融資・債務管理局
ODA 政策課課長



ラム・プラサド・マイナリ
ネパール財務省



モハマド・イクバル
パキスタン経済省日本担当官



ジェンマ・バラ
フィリピン国家経済開発庁上級経済開発専門官



パッチャラ・コシナノン
タイ国際開発機構



ジャヤ・クマラン
マレーシア首相府経済企画院国際協力計画課
首席課長補佐



(共同議長)
湊直信 国際大学客員教授
ブリヤニヤ・ドゥヌシンヘ
コロンボ大学経済学部上級講師

【第4セッション】



野田光地
国際協力機構（JICA）評価部企画役



村岡敬一 外務省 ODA 評価室室長



コンガス・シヴァダス
インド財務省経済局



サガリカ・ボガワッタ
スリランカ国家政策・経済省対外援助局プロジェクト管理および監視部人事課課長

【閉会セッション】



目次

プログラム	1
共同議長サマリー	3
発表要旨	5
発表者プロフィール	9
参加者リスト	11
略語一覧	14

第 15 回 ODA 評価ワークショップ
ー持続可能な開発目標（SDGs）の時代における評価能力開発ー

プログラム

第 1 日 （2018 年 2 月 7 日）	
9:30-10:00	開発セッション 【開会挨拶】 ルワンチャンドラ スリランカ国家政策経済省次官 増島稔 外務省国際協力局審議官 【共同議長によるワークショップ議題説明】 （共同議長） プリヤニャ・ドゥヌシンヘ コロンボ大学経済学部上級講師 湊直信 国際大学客員教授
10:00-10:10	写真撮影
10:10-10:25	コーヒーブレイク
10:25-12:25	第 1 セッション ODA 評価の役割と国際的潮流 【発表-1】「SDGs/アジェンダ 2030：評価の課題と機会」 発表者：アリルド・ハウゲ 国際連合開発計画独立評価局副局長 【発表-2】「SDGs：評価の価値付加の強化」 発表者：マヤ・ヴィジャヤラガバン アジア開発銀行独立評価局課題・国別課 上級評価専門官 【発表-3】「開発効果の学び・説明責任のツールとしての評価」 発表者：シヴァニャーナソーティ スリランカ国家統合・和解省次官 コメンテーター ：新井和久 国際協力機構（JICA）評価部部長 【議論】
12:25-13:50	昼食
14:00-15:00	第 2 セッション SDGs への対応と取組ーインドネシアにおける取組とその課題ー 【発表-4】「『持続可能な開発目標（SDGs）の計画・運営促進に係る情報収集・確認調査』からの学び」 発表者：石田洋子 広島大学教育開発国際協力研究センター教授 コメンテーター ：イシャ・ウェダシング・ミランダ スリランカ評価協会前理事、APEA 前理事 評価専門コンサルタント リザング・リハットナロ インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS) モニタリング・評価・開発管理システム課課長 【議論】
15:00-15:15	コーヒーブレイク
15:15-16:30	セッション 3 各国における SDGs への対応と取組 コメンテーター ：日野類子 外務省 ODA 評価室主査 【議論】 参加者に事前配布したアンケート結果に基づき、議論を実施
19:00-20:30	スリランカ 国家政策・経済省主催の夕食会

第 2 日（2018 年 2 月 8 日）	
09:30-11:00	セッション 4 ODA 評価の多様性ープログラム/プロジェクトレベルの評価の取組 【発表-5】 「JICA 事後評価における『プロセスの分析』の新たな試みーインド『デリーー高速輸送システム建設事業（デリーメトロ）』の事例からー」 発表者：野田光地 国際協力機構（JICA）評価部企画役 【発表-6】 「外交の視点からの ODA 評価」 発表者：村岡敬一 外務省 ODA 評価室室長 コメンテーター： ラム・プラサド・マイナリ氏 ネパール財務省 【議論】
11:00-11:20	コーヒーブレイク
11:20-11:50	閉会セッション 共同議長サマリー
12:00-13:30	昼食

共同議長サマリー
第 15 回 ODA 評価ワークショップ
2018 年 2 月 7、8 日、スリランカ（コロンボ）

第 1 セッション： ODA における評価の役割と国際的な潮流

本議題では ODA における評価の役割と国際的な潮流について議論が行われた。

- 国際連合開発計画のアリルド・ハウゲ氏は、「持続可能な開発目標（以下、SDGs）」の課題と評価の機会について発表を行った。発表では、「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」の構造に関し、その宣言部分、SDGs とターゲット、実践とフォローアップとターゲットの見直しについて評価のための課題を中心に説明がなされた。
- アジア開発銀行のマヤ・ヴィジヤラガバン氏は、SDGs に関連する 3 つの主要なメッセージ、すなわち、SDGs を評価のための新たな機会と捉えられること、国際的評価コミュニティにおいて、より良い学習を求めること、付加価値を高めるきっかけとなる点を提示した。同氏は包括的な成長、民間の収益性と開発の積極的な連携、地域協力の効果等におけるアジア諸国における評価からの教訓について発表した。
- スリランカからの発表者であるシヴァニャーナソーティ氏は、評価に於ける学習と説明責任間のバランスについて、同氏の見解を共有した。彼は、SDGs 評価の時代における合同評価と参加型評価を強調した。議論の中では、説明責任と評価能力開発のための合同評価の重要性が示された。
- 独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）の新井和久評価部長は、SDGs の複雑な性質、共同作業に対する評価と機会の重要性が増していることについて、発表者と共通の課題であるとコメントした。

第 2 セッション： SDGs への対応と取組－インドネシアにおける取組とその課題－

本議題では、インドネシア政府による SDGs の計画、実践、モニタリングと評価のプロセスと進捗状況が提示され、議論が行われた。

- 広島大学の石田洋子教授は、現在 JICA が同国で実施中の「持続可能な開発目標（SDGs）の計画・運営促進に係る情報収集・確認調査」からの発見・気づきについて、インドネシア政府の国家の制度構造、グローバル指標の国・地域レベル指標での代替化、仕組みと手順、モニタリングと評価における課題を中心に発表を行った。
- インドネシア国家開発計画（BAPPENAS）のリザング・リハットナロ氏は、インドネシアにおける SDGs の実践・モニタリング・評価の監督官庁である BAPPENAS の立場から、石田教授の発表についてのコメントを述べた。その中で、インドネシア政府は、SDGs に関するデータの収集・報告のみならず、SDGs の“誰一人取り残さない”という点に重きを置いている点を強調した。
- スリランカ評価協会のイシャ・ウェダシング・ミランダ氏は、インドネシアは SDGs のモニタリング・フォローアップにおいて他国よりも一歩先んじているとコメントした。また、ジ

エンダーの問題をどのように扱うかについて言及する必要があること、グローバル指標の国・地域レベル指標での代替化のプロセスと基準について、とりわけインドネシア政府がいかにしてそれらのマッピングと関連づけを行ったのか、即ちどのように解釈したのか、そしてそれらの指標をどのように選択・変更したのかについて、明らかにする必要があると述べた。

第3セッション： 各国における SDGs への対応と取組

本議題では、SDGs のフォローアップとレビューに関するアンケートの参加各国の回答に基づいて、評価の文脈における各国の SDGs への対応と取組について発表がなされた。

- 外務省の日野類子主査は、各国における SDGs への対応と取組の傾向について簡潔に発表し、フィードバックシステムの確立の重要性について強調した。
- バングラデシュ、ブータン、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、タイおよび日本からの参加者は、SDGs の評価の文脈における各国の取組と対応、その課題について情報を共有した。数か国の参加者からは、データ管理が自国の課題であるとの発言があった。

第4セッション： ODA 評価の多様性—プログラム/プロジェクトレベルの評価の取組

本議題では、プログラムレベルとプロジェクトレベルでの多様な ODA 評価について議論が行われた。

- JICA 評価部の野田光地企画役は、インド・デリーにおける高速輸送システム建設事業のプロセス分析を事例として新しい評価のアプローチについて発表を行った。同氏は、評価の目的とされる説明責任と学習のバランスをとるために、従来の事後評価によってもたらされた教訓をプロジェクト・エスノグラフィー（※）を通じたプロセス分析が補完する点を強調した。
- 外務省の村岡敬一 ODA 評価室長は、外交の視点からの ODA 評価について発表を行った。同氏は外交の視点からの評価への要請について、また最近の2つの事例について紹介を行った。
- ネパール財務省のラム・プラサド・マイナリ氏は、定量分析と因果関係分析の重要性について言及した。

※注 人類学のフィールド調査の記録手法であるエスノグラフィー（民族誌）を用いて開発プロジェクト（事業）の実施プロセスを記録する手法。

発表要旨

(発表順)

第1セッション

発表1：SDGs/アジェンダ2030：評価の課題と機会

アリルド・ハウグ 国際連合開発計画独立評価局副局長

持続可能な開発目標（以下、SDGs）またはアジェンダ2030は、開発分野への政策目標の新しい章をもたらす。したがって、指標およびターゲットを伴う目標は、普遍的な共通の目標であるだけでなく、評価者が開発関係者の業績を判断する必要があるという最終的な目標でもある。しかしながら、多くの課題が明らかとなっている。

- 目標の不明瞭さ：暫定的な進展の度合いを設定/コミットする
- 複雑さ：目標の相互関連性
- 測定可能性：指標の不備
- 因果関係：帰属か貢献か

組織にとっては、事前に効率性への期待を述べるのは容易であるが、評価者は、SDGsの進展に対して影響を及ぼす、複数の関係者および要因の変わりやすい影響を見極めることがますます求められるだろう。独自の組織的な比較優位性および相対的価値の追求を、影響を受ける国際的・国内的・地方レベルの関係者間で厳格性と正当性とを組み合わせつつ検証することは難しいだろう。にもかかわらず、評価の専門家がSDGsと有意義な関係築く機会は数多くある。

- SDGs レビューの枠組みの強化
- 国家評価能力の開発
- 技術、ビッグ・データ、地理情報
- 公共、市民社会の情報へのアクセス
- 国連開発システムの改革
- 国連評価グループ、合同評価および共同監査

発表2：SDGs：評価の価値付加の強化

マヤ・ヴィジャヤラガバン アジア開発銀行独立評価局課題・国別課 上級評価専門官

この発表では持続可能な開発目標（以下、SDGs）に関連する3つの重要なメッセージを伝えるために、ADB（アジア開発銀行）の評価の経験と教訓を共有していく。

3つの重要なメッセージとは、第1に、SDGsは新たな課題を伴うのではなく、むしろ評価のための新たな機会をもたらすこと、第2に、SDGsは、3つの疑問（何が機能するのか／何が機能しないのか／国・地域・ODA実施機関の間でなぜ違うのか。）に関するより良い学習を求めていること、第3にSDGsは国際評価コミュニティに付加価値を高める7つの義務を喚起することである。

発表3： 開発効果の学び・説明責任のツールとしての評価

シヴァニャーナソーティ スリランカ国家統合・和解省次官

政策、プログラム、プロジェクトの開発評価は、主に2つの目的のために行われる。従来の目的は、結果に対する説明責任を強調する方向に向かっている。プログラムやプロジェクトのモニタリングは定期的実施され、インプット（投入）、アクティビティ（活動）、アウトプット（実績）だけを見ているのに対して、評価は成果や影響の達成度を検証している。したがって、評価は、独立で信用でき公平でなくてはならず、外部者により実施することが推奨された。他方で、近年、評価はより学習指向であり、合同評価の実施やパートナー・ドナー間の合同評価に関心が高まっている。そのような評価は、将来のプロジェクトやプログラムの計画と実施を強化を目指し、プログラムの関連性・実施の効率性・有効性・影響力・持続可能性について、計画・実施・実施後の成功と失敗から学ぶことに重点を置いている。

議会への説明責任に加え、合同および被援助国・ドナー間の合同評価を通じた開発効果を向上させるための学習は、最近の傾向であった。発表では、需要側・供給側の制約をそれぞれ検証し、行政機構における開発評価の制度化、主流化および専門化を強化するための戦略を推奨する。また、能力開発の取り組み、普及・フィードバックの準備、そして有意義な学習指向の評価を可能にする行政機構における学習に適した制度構築についても説明する。さらに、開発効果を達成するための評価の成功を支える、国家評価政策の重要性やその他の効果的な要因が検討される。さらに、有効的な開発を達成するためには、評価の独立性、信頼性、効用の適切なバランスを確保することも必要である。

この発表の焦点は、被援助国の視点から、ドナー主導の評価に対抗し、合同評価を含む被援助国による、被援助国主導の視点に基づく評価を検討することであり、被援助国主導の評価は、有効な開発の国際的な傾向につながるとみられる点が強調される。被援助国による評価については、事例を用いて検討する。

第2セッション

発表4： 「持続可能な開発目標（SDGs）の計画・運営促進に係る情報収集・確認調査」

からの学び

石田洋子 広島大学教育開発国際協力研究センター教授

インドネシア政府は、新たな国際開発アジェンダ「2030アジェンダ」の効果的な実施だけでなく、国家中期開発計画（RPJMN）の目標の達成に貢献するために、モニタリングと評価を確立している。JICAや国連開発計画（UNDP）、ユニセフ、オーストラリア政府、ドイツ国際協力公社（GIZ）などの開発パートナーと協力してSDGsのモニタリング評価システムを構築している。本調査は、国際開発センターと広島大学の共同研究として、インドネシア国家開発企画庁（BAPPENAS）のSDGs事務局と協力し、JICAの資金協力・監督を受け実施された。この調査の目的は、インドネシアにおけるSDGsへの取り組みの全般的な状況をレビューすること、SDGsの目標/指標を確立し達成するために、既存の政府機関でのモニタリング評価の枠組みを可能にす

る提案を作成すること、能力開発のための JICA の技術協力のよりよいアプローチについて議論することである。自国の社会経済発展を監視するために必要な 69 のインドネシア固有の指標をグローバル指標に加えることにより、インドネシアは SDGs で掲げられる 17 の目標に 319 の指標を設定している。インドネシアにおけるモニタリング評価の能力開発に考慮すべき大きな課題は以下 3 点を含むと考えられる。第 1 に SDGs 指標と国家中期開発計画 (RPJMN) プログラムの成果との因果関係の明確化と判断の方法、第 2 に自治体へのモニタリングとフィードバック方法、第 3 に非国家団体、慈善団体のモニタリングおよび協働の方法である。

第 4 セッション

発表 5 : JICA 事後評価における『プロセスの分析』の新たな試み

ーインド『デリー高速輸送システム建設事業 (デリーメトロ)』の事例からー

野田光地 国際協力機構 (JICA) 評価部企画役

評価からの「学び」の観点を含め、開発プロジェクトの実施プロセスに焦点を当てる「プロセスの分析」は国際的潮流であり、世界銀行が主導するグローバル・デリバリー・イニシアティブ (GDI) に見られるように、ドナー機関の間でも共通の関心事項となって来ている。

このような動きに対し、JICA はプロジェクトの効果発現の「プロセス」の確認および分析の深化を目指した「プロセスの分析」の手法の整理に取り組んでいる。評価の目的とされる「説明責任」と「学び」の適切なバランスのもとで、「プロセスの分析」は、プロジェクトの評価にあたり、定性面、「どのように (How)」と「なぜ (Why)」を深く分析し、定量面、「何 (What)」に焦点を当てた OECD / DAC (経済協力開発機構 開発援助委員会)「評価 5 項目」による従来からの評価を補完する役割を担い得る。

これまで、JICA は複数の分析アプローチを用いて、インド、ケニアの各プロジェクトで「プロセスの分析」を試行している。分析アプローチの一つ、「プロジェクト・エスノグラフィー」は人類学のフィールド調査の記録手法であるエスノグラフィー (民族誌) を用いて開発プロジェクトの実施プロセスを記録する手法である。「プロジェクト・エスノグラフィー」によるアプローチは、多角的な視点からの『現場』のリアリティの再構築をし、それを物語のフォーマットで記述する点が特徴であり、これにより読者に現場を迫体験させ、自ら実践的な教訓を引き出す一助とすることが企図される。

本発表では、インドの「デリーメトロ」をケースに、「プロジェクト・エスノグラフィー」の手法を用いた「プロセスの分析」事例を紹介する。

発表 6 : 外交の視点からの ODA 評価

村岡敬一 外務省大臣官房 ODA 評価室長 / OECD / DAC 開発評価ネットワーク副議長

日本は、2011 年以降、開発協力が外交政策との関係で国益にどのように貢献したかに関する評価を実施している。本発表では、外交的視点と評価の取組とその課題について、日本が支援する国々に伝える事を目的とする。

日本では、国会と納税者の要請に応え、開発協力への努力が日本の外交や国益をどのように支

えているかを評価するために、ODA 評価室は外交の視点からの評価に使用される標準的な検証項目と検証ツールを作成した。

本発表では、2016 年度に実施した「タンザニア国別評価」と「環境汚染対策の日本の取組の評価」における開発視点からの ODA 評価結果を示す。

さらに、外交の視点のからの評価に関連する提言、および政策担当者の提言に対する対応方針を紹介する。

発表者プロフィール

(発表順)

アリルド・ハウゲ

国際連合開発計画独立評価局副局長

国際連合開発計画独立評価局の副局長であり、国連評価グループ(UNEG)の執行コーディネーターである。2005～2015年には、国連事務局の内部監査部(OIOS)の評価部長を務め、事務総長、総会、専門監督機関が検討する一連のテーマとプログラムの評価を監督した。1999年から2005年の間に、様々な国連機関と世界銀行のモニタリング評価アドバイザーを務めた。1990年から1996年までジンバブエとスワジランドで勤務。マンチェスター大学で経営科学の博士号を取得している。

マヤ・ヴィジャヤラガバン

アジア開発銀行独立評価局課題・国別課上級評価専門官

アジア開発銀行の独立評価局課題・国別課の上級評価専門官である。過去20年に渡り、アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパの各国で勤務。世界銀行グループに所属していた経歴を持つ。2013年に独立評価局入局以前は、アメリカ合衆国政府のシニアエコノミストを務めていた。アメリカ合衆国保健福祉省での12年間の在任期間中には、複数の国・パートナー・分野のチームを管理・指導し、業務、研究、評価において成果をもたらした。独立評価局では、テーマ別、国別、セクター別、プロジェクトレベルでの評価を統括している。米国クレムソン大学で応用経済学の博士号を取得。

V・シヴァニャーナソーティ

スリランカ国家統合・和解省次官

スリランカの国家統合・和解省次官。現職以前には、刑務所改革・復興・再定住・ヒンドゥー教省次官を務め、またプランテーション省次官、伝統産業・小企業開発省次官を務めた。また、海外援助・予算モニタリング局長を務めた経験があり、多数の開発プロジェクトやプログラムの実施段階および実施後の評価を行った。スリランカにおける評価情報システム(EIS)と電子プロジェクトモニタリングシステム(ePMS)を立ち上げた。

OECDのドナー8か国と被援助国11カ国を含む援助効果に関するパリ宣言の実施評価の共同議長を務めた。また、コロombo大学、スリヤジャワデネプラレゲプラ大学などの研究機関で、開発評価の専門家として貢献している。またカナダのカールトン大学の「開発評価のための国際評価プログラム(IPDET)」において開発評価を担当した。

コロombo大学では経済学栄誉賞を受賞。英国ブラッドフォード大学にてプロジェクト立案とマネジメントの修士号を取得している。また、スリランカの公認会計士協会の会員であり、英国の会計士協会の会員でもある。

石田洋子

広島大学 教育開発国際協力研究センター教授

25年にわたり国際開発コンサルタントを務めた後、2015年10月に広島大学で勤務を開始した。国際開発コンサルタントを務めた期間には、2015年度「日本の教育協力政策評価 2011-2015（外務省の第三者評価）」など様々な政策/プログラム/プロジェクトレベルの評価に参加した。日本評価学会の理事であり、自信の現場での経験に基づきミックスド・メソッド（※）を用いた能力開発プロジェクトの評価のあり方について研究している。

2017年1月から国際開発センター（IDCJ）と広島大学が共同企業体を組み JICA の委託を受けて実施している「インドネシア共和国における持続可能な開発目標（SDGs）の計画・運営促進に係る情報収集・確認調査」のチームメンバーを務める。

※注 量的調査と質的調査を合わせる研究法。

野田光地

国際協力機構（JICA）評価部企画役

1989年に海外経済協力基金（OECF：旧 JBIC（国際協力銀行）の前身の一つで有償資金協力実施機関。現 JICA に承継）採用。ODA プロジェクトに関する審査、貸付、監理等の業務中国、イギリス、ケニアでの在外勤務等を経験。現在、JICA 評価部において、インパクト評価の統括業務、世界銀行が主導するグローバル・デリバリー・イニシアティブ（GDI、※）などドナー機関、OECD/DAC の開発評価ネットワークとの連携業務を主に担当している。早稲田大学で政治学、国際関係論を専攻、東京大学公共政策大学院で修士号を取得している。

※注 開発プロジェクトの実施上の共通課題（デリバリー・チャレンジ）を共有する国際的ナレッジマネジメント、シェアのプラットフォーム

村岡敬一

外務省 大臣官房ODA評価室長

1980年に国際協力機構（当時の国際協力事業団、現 JICA）に入団。現職（2015年1月～）以前は、JICA にて企画・評価部援助協調室長、広報室長、公共政策部次長、評価部長など、数多くの役職を歴任。海外では、国際連合日本政府代表部、在エジプト日本大使館、JICA オーストリア事務所での勤務経験がある。2003年から2005年の間、国際原子力機関（IAEA）の事務局長に技術協力政策や戦略を助言する常設技術協力諮問委員会のメンバーを経験。現在、OECD/DAC の開発評価ネットワーク（EvalNet）の副議長を務める。

参加者リスト

Country/ Organization	Organization	Title	Name
共催国の代表			
Sri Lanka	Ministry of National Policies and Economic Affairs	Secretary	Mr. K. D. S. Ruwanchandra
Japan	International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs	Deputy Director-General	Mr. Minoru Masujima
共同議長			
Sri Lanka	Department of Economics, University of Colombo	Senior Lecturer	Dr. Priyanga Dunusinghe
Japan	International University of Japan Asia Pacific Evaluation Association (APEA)	Visiting Professor Former Vice President	Mr. Naonobu Minato
発表者			(発表順)
UNDP	Independent Evaluation Office (IEO)	Deputy Director	Mr. Arild Hauge
ADB	Thematic and Country Division, Independent Evaluation Department (IEB)	Senior Evaluation Specialist	Ms. Maya Vijayaraghavan
Sri Lanka	Ministry of National Integration and Reconciliation	Secretary	Mr. V. Sivagnanasothy
Japan	Center for the Study of International Cooperation in Education (CICE), Hiroshima University	Professor	Dr. Yoko Ishida
Japan	Evaluation Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)	Senior Deputy Director	Mr. Koji Noda
Japan	ODA Evaluation Division, Minister's Secretariat, Ministry of Foreign Affairs	Director	Mr. Keiichi Muraoka
コメンテーター			(発表順)
Japan	Evaluation Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)	Director General	Mr. Kazuhisa Arai
Sri Lanka	Sri Lanka Evaluation Association Asia Pacific Evaluation Association (APEA)	Board Member Former Board Member	Ms. Isha Wedasinghe Miranda
Indonesia	System of Monitoring, Evaluation and Development Control, Ministry of National Development Planning	Director	Mr. Rizang Wrihatnolo
Japan	ODA Evaluation Division, Minister's Secretariat, Ministry of Foreign Affairs	Assistant Director	Dr. Ruiko Hino
Nepal	Ministry of Finance		Mr. Ram Prasad Mainali

参加者			
Bangladesh	Economic Relations Division, Ministry of Finance	Deputy Secretary	Mr. Bashir Ahamed
Bhutan	Dzongkhag Administration, Bumthang	Senior Planning Officer	Mr. Chedup Dorji
India	Department of Economic Affairs, Ministry of Finance		Mr. Kongath Sivadas
Indonesia	System of Monitoring, Evaluation and Development Control, Ministry of National Development Planning	Director	Mr. Rizang Wrihatnolo
Malaysia	International Cooperation Section, Economic Planning Unit, Prime Minister's Department	Principal Assistant Director	Mr. Jaya Kumaran K P Vengadala
Maldives	Ministry of Foreign Affairs	Additional Secretary	Mr. Ibrahim Shaheeb
Mongolia	ODA Policy Division, Ministry of Finance	Director	Mr. Bolor Enkhbayar
Myanmar	Treasury Department, Ministry of Planning and Finance	Deputy Director	Ms. Thin Thin Su
Nepal	Ministry of Finance		Mr. Ram Prasad Mainali
Pakistan	Economic Affairs Division, Ministry of Finance, Revenue and Economic Affairs		Mr. Muhammad Iqbal
Philippines	National Economic and Development Authority (NEDA)	Senior Economic Development Specialist	Ms. Gemma Bala
Thailand	Thailand International Cooperation Agency (TICA)	Development Cooperation Officer	Ms. Patchara Kosinanont
UNDP	UNDP Sri Lanka	Country Director	Mr. Joern Soerensen
USAID	USAID Sri Lanka and the Maldives	Deputy Program Office Director	Ms. Kaarli Sundsmo
USAID	USAID Sri Lanka and the Maldives	Monitoring and Evaluation Specialist	Mr. Chandima Bandara
共催国 参加者			
Sri Lanka	Ministry of Development Assignments	Secretary	Ms. L. D. Senanayake
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Director General	Mr. P. M. P. Ratnayake
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Additional Director General	Ms. Noor Rizna Anees
Sri Lanka	Department of National Planning, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Additional Director General	Ms. Sepali Rupasinghe

共催国 参加者			
Sri Lanka	Department of Project Management & Monitoring, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Director General	Ms. Ayanthi De Silva
Sri Lanka	Human Resource Sector, Department of Project Management & Monitoring, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Director	Ms. Sagarika Bogahawatte
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Director	Mr. Wasantha Kumara Dharmasena
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Assistant Director	Ms. Gayoma Senanayake
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of National Policies and Economic Affairs	Assistant Director	Mr. Ajith Kumara
Japan	ODA Evaluation Division, Minister's Secretariat, Ministry of Foreign Affairs	Director	Mr. Keiichi Muraoka
Japan	ODA Evaluation Division, Minister's Secretariat, Ministry of Foreign Affairs	Assistant Director	Dr. Ruiko Hino
Japan	Embassy of Japan in Sri Lanka	First Secretary	Mr. Sakae Waratani
Japan	Embassy of Japan in Sri Lanka	Second Secretary	Ms. Kayo Imamura
Japan	Evaluation Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)	Director General	Mr. Kazuhisa Arai
Japan	Evaluation Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)	Senior Deputy Director	Mr. Koji Noda
Japan	JICA Sri Lanka Office	Chief Representative	Mr. Fusato Tanaka
Japan	JICA Sri Lanka Office	Senior Representative	Mr. Toru Kobayakawa

略語一覧

ADB	アジア開発銀行
APEA	アジア太平洋評価協会
ASEAN	東南アジア諸国連合
BAPPENAS	インドネシア国家開発企画庁
CICE	教育開発国際協力研究センター
DAC	開発援助委員会
EvalNet	OECD-DAC開発評価ネットワーク
GIZ	ドイツ国際協力公社
GDI	グローバル・デリバリー・イニシアチブ
IAEA	国際原子力機関
IED	アジア開発銀行独立評価局
IEO	国際連合独立評価局
JICA	独立行政法人国際協力機構
M&E	モニタリング・評価
MDGs	ミレニアム開発目標
MOFA	日本国外務省
NEDA	フィリピン国家経済開発庁
NDG	国際開発目標
ODA	政府開発援助
OECD	経済協力開発機構
SDGs	持続可能な開発目標
PDP	フィリピン開発計画
PLTV	フィリピン長期ビジョン
UNEG	国際連合評価グループ
UNDP	国際連合開発計画
UNICEF	国際連合児童基金
USAID	米国国際開発庁